

第2学年A組 保健体育科（保健分野）指導案

日 時：令和7年11月14日（金）5校時
場 所：第2多目的室
対 象：第2学年A組16名（男子11名，女子5名）
指導者：三枝まり子
講 師：清水 美智子（サンスマイルえがお）

1 単元名 「健康な生活と疾病の予防（ウ）生活習慣病などの予防 ④ がんの予防」

2 単元について

小学校体育科保健領域では、健康の大切さや健康によい生活，病気の原因や予防について学習している。中学校第1学年では、健康の成り立ちや，疾病の発生には主体と環境の要因が関わっていること，さらに運動・食事・休養及び睡眠等の生活習慣が健康に深く関係していることを学んでいる。

これらの学習を踏まえ，中学校第2学年では，生活習慣と心身の健康との関わりについて理解を深めることを目的としている。生活習慣病の予防には，適切な生活習慣を身に付けることが有効であること，健康診断やがん検診などを通じて早期に異常を発見することが，疾病の早期回復につながることを学習する。

がんは日本人の死因の第1位であり，2人に1人が生涯のうちに発症するとされている。がんについて正しく理解し，がん教育を通じて自分の人生をよりよく生きる方法を考えることは重要である。さらに，より良い社会環境を築く方法を身に付け，ともに生きる社会の実現に寄与する力を育むことも，本単元のねらいの一つである。

3 生徒の実態

本学級は男子11名，女子5名，計16名（特別支援学級生徒4名含）で構成されている。少人数学級であるため，生徒同士の関係は良好であり，明るく前向きな雰囲気の中で授業に取り組むことができている。

体育分野の授業では，互いに協力しながら活発に活動する姿が見られ，意欲的に取り組む様子が見え始める。一方，保健分野においては，学習内容を自分事として捉え，意見を考えたり，それを整理して発表したりすることに課題がある。そのため，身近な話題と関連づけながら，小グループによる話し合い活動を多く取り入れている。他者との情報交換を通じて，自らの考えを深めることができるよう，今後も継続的な支援が必要である。

4 教師の指導観

がんは，山梨県における死因の第1位であり，重要な健康課題の一つである。中学校におけるがん教育を効果的に実施するためには，医師やがん患者・経験者などの外部講師を活用し，生徒に正しい知識を身に付けさせることが重要である。これにより，生徒ががんを身近な問題として捉え，家族や友人が罹患した際に適切に対応できる力を養うとともに，精神的な負担の軽減にも繋がることを目指したい。

さらに，健康と命の大切さについて学ぶことを通して，自らの健康を適切に管理し，望ましい生活習慣を確立するための資質・能力の育成を図る。また，生徒が学習した内容を家庭や地域に発信することで，地域社会におけるがん教育の普及・発展にも寄与したいと考える。

5 単元の目標

(1) 健康な生活と疾病（がん）の予防について，理解することができるようにする。

【知識及び技能】

(2) 健康な生活と疾病（がん）の予防に関わる事象や情報から自他の課題を発見し，疾病（がん）等のリスクを軽減したり，生活の質を高めたりすることなどに関連付けて解決方法を考え，適切な方法を選択し，それらを伝え合うことができるようにする。

【思考力，判断力，表現力等】

(3) 健康な生活と疾病（がん）の予防について，自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。

【学びに向かう力，人間性等】

6 単元の指導計画
 (1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①生活習慣病は、日常の生活習慣が要因となって起こる疾病であり、適切な対策を講ずることにより、心臓病、脳血管疾患、歯周病などを予防できることについて理解したことや、生活習慣病を予防するには、適度な運動を定期的に行うこと、毎日の食事における量や頻度、栄養のバランスを整えること、喫煙や過度の飲酒をしないこと、口腔の衛生を保つことなどの生活習慣を身につけることが有効であることについて、理解したことを言ったり書きだしたりしている。</p> <p>②がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあることや、がんの予防には適切な生活習慣を身につけることが有効であることについて、理解したことを言ったり書きだしたりしている。</p>	<p>①生活習慣病の予防における事柄や情報などについて、原則や概念をもとに整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見するとともに、習得した知識を活用し、生活習慣病を予防するための方法を選択している。</p> <p>②外部講師を活用し、がんについて、今まで習得した知識を自他の生活に適用したり、課題解決に役立てたりして、がん患者と共生する方法を見出している。</p> <p>②習得した知識をもとにがんの予防法を見出したり、疾病等にかかるリスクを軽減した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている。</p>	<p>①生活習慣病やがんの予防、共生について、課題解決に向けての学習に自主的に取り組もうとしている。</p>

(2) 指導と評価の計画 (5 時間計画)

主な学習内容・学習活動		評価の観点			評価方法	
		知識理解	思考判断表現	態度		
時数	1	○がん、心臓病、脳卒中などの生活習慣病は生活習慣と深い関係があることを理解する。 ①自他の生活を振り返り、生活と健康の関係について考える。 ②生活習慣病には具体的にどのようなものがあるか理解する。	①			観察 スライド
	2	○生活習慣病を予防するために有効な生活習慣について理解する。 ①生活習慣病を予防するための方法を考える。 ②自分や家族が続けた方がよい生活習慣と、改善したほうがよい生活習慣をスライドにまとめる。		①		観察 スライド
	3	○外部講師よりがんの基礎知識や日本のがんの現状、検診やワクチンの必要性、治療、がん罹患患者への理解についての講演を聴き、新しく得た知識や自分の意見をスライドにまとめる。 ☆松里診療所 吉信英子医師による講演会。 【講演会内容】 ①がんの基礎知識 ②がんの発生と原因 ③日本のがんの現状 ④がんの予防 ⑤がん検診 ⑥がんの治療 ⑦がん罹患患者への理解	②			観察 スライド

	4 本時	<p>○外部講師よりがん罹患者や家族の心情などの講話を聴く。 ☆サンスマイルえがお 清水美智子さんによる講話。</p> <p>【講話内容】</p> <p>①がん検診での告知 ②がんの治療 ③家族や周囲への配慮 ④正しい情報を得る ⑤大切な命を守る ⑥がん罹患者への寄り添い方</p> <p>○がん罹患者への寄り添い方について、学びを深める場を選択し、意見共有しながら自分の考えをスライドにまとめる。</p>		②		観察 スライド
	5	<p>○学んだことをもとに、がん予防の観点から自他の生活を振り返る。</p> <p>①今自分にできることを考える。 ②学んだことをまとめ、家庭や地域へ向けてがん予防のためのメッセージカードを作る。</p>		③	①	観察 メッセージ カード

7 本時の学習と指導（第4時間目）

(1) 本時の目標

外部講師を活用し、がんについて、今まで習得した知識を自他の生活に適用したり、課題解決に役立てたりして、がん患者と共生する方法を見出すことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

(2) 本時の評価

外部講師を活用し、がんについて、今まで習得した知識を自他の生活に適用したり、課題解決に役立てたりして、がん患者と共生する方法を見出している。

【思考・判断・表現】

(3) 本時の展開

時間	学習内容と学習活動	教師の指導・支援 (○指導・支援 ◆評価規準)
はじめ 5分	<p>1 前時の振り返りをする。 ・3時間目までの学習内容で自分が得た新たな知識や気づきについてスライドにまとめた内容を確認する。</p> <p>2 事前のアンケート結果を提示する。 【もし、ある日突然、親から『がんになった』と知らされたら、あなたはどんな気持ちになるでしょうか？そのとき、親にどんな言葉をかけたいと思いますか？】</p> <p>3 本時の学習課題を共有する。 ・生徒の疑問や既習事項との関連を意識し、話を聴く際に留意すべき点を踏まえて、学習課題をスライドに記述する。</p>	<p>○前時までの学習内容を振り返り、生徒の理解を促すために、スライドをモニターに提示して確認を行う。</p> <p>○事前の吉信先生（医師）の講演会後の生徒の理解や感情を把握し、学びを可視化するためにアンケートを活用する。</p> <p>○生徒同士の気づきを共有し、学びを広げる支援として、モニターで意見を提示する。</p> <p>○本時の学習課題や学習内容について、「自分事」として捉えられるような説明を行い、主体的に学ぶための支援をする。</p>
<p>【学習課題】</p> <p>がん罹患者の体験や心情を聴き、がん罹患者への寄り添い方を考えよう。</p>		

4 外部講師の清水さんの講話を聴く。
(25分程度)

【講話内容】

- ①がん検診での告知
- ②がんの治療
- ③家族や周囲への配慮
- ④正しい情報を得る
- ⑤大切な命を守る
- ⑥がん罹患者への寄り添い方

5 講話を聴き、がん罹患者への寄り添い方について具体的な事例をもとに考え、自分の考えをスライドにまとめる。(15分)

【ある日、親から『がんになった』と知らされたら、あなたはどんな言葉をかけたいと思いますか。またその後、あなたはどのように毎日を過ごしていきたいと考えますか。】

【学びを深める場の選択】

- A 清水さんに質問する。
- B 清水さんが今までの出前授業で受けた質問に対する回答の資料を読む。
- C 参観されている方の意見を聴く。
- D 文部科学省から出されている資料を読む・生徒はA～Dの場から自由にいくつでも選択し、より多くの情報を得た上で自分の意見をスライドにまとめる。

◆〈思・判・表②〉

外部講師を活用し、がんについて、今まで習得した知識を自他の生活に適用したり、課題解決に役立てたりして、がん患者と共生する方法を見出している。

6 スライドにまとめた内容を数名発表する。
(5分)

7 清水さんの話を聴く。(5分)

○がんを経験した清水さんの講話を聴きながら、生徒ががん罹患者の心情や治療のつらさ、周囲の支えについて理解を深められるよう、スライドにメモを取ることを促し、学びの整理を支援する。

○身近な人ががんにかかったときに、がんへの正しい理解をもとに接することの大切さを生徒が実感できるように、講話の内容等を活用しながら支援する。

○がん罹患者を支える家族の心情にも目を向け、一人で抱え込まずに相談したり、支援を受けたりすることの重要性を、生徒が理解できるように働きかける。

○生徒がA～Dの学びの場を主体的に選択し、情報を収集・整理できるように支援する。

○スライド作成中は机間巡視を行い、生徒の情報収集や思考の進み具合を把握し、必要に応じて助言や問いかけを行う。

○情報の整理やスライド作成に困っている生徒には、構成のヒントや視点の整理を支援する。

●努力を要する生徒への手立て

- ・清水さんの講話をもとに、がん罹患者が病気を告げられた時に抱く気持ちや、周囲がどのような支えを求めているかについて個別に説明を行い、内容への共感や気づきを促す支援を行う
- ・言葉をかけるだけではなく、行動や他の方法でも良いことを伝える。

○事前アンケートから気持ちの変化が見られた場合には、生徒が発表を通じてその変化を振り返り、他者と共有することで学びを深められるよう支援する。

○挙手が少ない場合には、教師が机間巡視を行い、生徒の記述内容を把握したうえで、異なる意見を持つ生徒を指名し、多様な考え方が共有されるよう支援する。

○生徒の発表後、清水さんの考えや想いに改めて耳を傾ける機会を設けることで、生徒ががんについての理解をより深め、自分にできることを主体的に考えられるよう支援する。

ま と め 5 分	8 本時の学習を振り返る。 【松里中振り返りのポイント】 ①課題や目標に向けて自分に合った学び方ができたか。 ②学習を通して何がわかったか。 ③学びの振り返りをもとに次にどんなことを学びたいか。	○生徒が自らの学習方法や理解の深まりを振り返り、それを言語化できるように、松里中の振り返りポイントを提示し、思考を促す支援を行う。 ○振り返りを通して次の学びにつながるよう、生徒の気づきや関心を引き出し、学習意欲を高める働きかけを行う。
---------------------------	--	---

8 学びの振り返り

【第2時 生徒作成ワークシート】

第1時の学習、保健室廊下の掲示物、教室内の資料、指定した検索サイトを参考に、各自で生活習慣病の予防についてまとめた。

生活習慣病の予防についてまとめよう

続けたほうが良い生活習慣

- ・朝、昼、夜で分けてご飯をしっかり食べる
- ・週2～3回、息が少し荒くなり汗をかくぐらいの運動をする
- ・十分な睡眠をとる

改善したほうが良い生活習慣

- ・10時過ぎには寝て、睡眠時間をもっと取る
- ・食べたいものばかりを食わずにタンパク質やビタミンなどの栄養をとれる食事をし、動物性脂質のとりすぎに気をつける
- ・適度な運動をする ・決まった時間に起きる ・休日でも遅く起きない
- ・こまめにストレスを発散 ・夜遅くにブルーライトをみない

大人になったときの理想の生活習慣

- ・栄養バランスをよく食べる、喫煙と飲酒を控える

生活習慣病の予防についてまとめよう

生活習慣病と生活習慣は繋がっている＝生活習慣で生活習慣病になる可能性大

▶▶生活習慣を見直せば、生活習慣病になる可能性を下げることができる

生活習慣病の予防のために大切Point

1.健康増進・発病予防（一次予防）

○運動 ○栄養 ○休養 ○喫煙や過度の飲酒 **×**

2.早期発見・早期治療（二次予防）

○自己管理（体重・血圧の管理） ○検査

私達にできるのは一次予防と二次予防！

自分の生活を見直してみよう！



一無…無煙
 二少…少食・少酒
 三多…多休・多接・多動
 これらを意識することで生活習慣病を予防することができる

【第5時 生徒作成ポスター】

第3時の外部講師による講演会、第4時の外部講師活用授業での学習をもとに、学んだことを誰に伝えたいか（家族、地域等）、何を伝えたいか（病気について、予防について、患者への寄り添い方について）を各自で選択し、ポスターを作成した。正しい知識が身に付き、自分には何ができるか改めて考える内容になっている。

がんを予防しよう

がんの予防方法を知り、健康的な生活を送ろう

がん

がんは、どの臓器でも、どの年代でも、かかる可能性があり、二人に一人が診断される病気です。

がんの予防方法

- ・タバコを吸わない
- ・お酒を飲み過ぎず、食べ過ぎない
- ・よく寝て、よく動いて、よく人と関わる

「一無二少三多」

注意点

がんは完全に解明されておらず、予防をしっかりといても罹ってしまう可能性があります。予防をしておけば罹る確率を下げることが出来ます。また、定期的に検診を受け、早期発見を心がけましょう！

がんの治療法

主に、手術・放射線・化学療法があり、手術・がんを取り除きます放射線・放射線を当てがんでがんを殺します。化学療法・抗がん剤などで、がんの増殖を防ぎます。組み合わせて治療することもあります。

一無、二少、三多

がん患者に寄り添う

～がん患者をみんなで支えよう～

がん患者の気持ち

- ・自分のことで精一杯考えられない・約束できない
- ・常に不安な気持ちがある
- ・ショックや悲しみ、怒りなどさまざまな気持ちがある

がんを乗り越えられたのは… 周りの人たちの支え

がん患者への寄り添い方

- ✓ **家族**
 - ・希望を聞く・そばにいてあげる
 - ・家事を手伝う
 - できることはやらせてあげる
- ✓ **友人**
 - ・何気ない話・気分転換
 - 普段と同じように接する
- ✓ **仲間(同じがん患者)**
 - ピアサポート(支え合う) ピア＝仲間

がん患者との寄り添い方

がんになってしまった人の気持ち

- ・不安や辛い思いになってしまいがち
- ・笑顔がなくなる
- ・できることはやらしてほしい

寄り添い方

- 家族：希望を聞く・家事の手伝い・そばにいて
- 友人：何気ない会話・気分転換
- ★いつも通り接してあげる

一番大切なことは 支え合うこと

～がんについて～

1.病気について

がん…細胞の遺伝子が傷つき、制御する力を失い増殖する悪性腫瘍のこと

一生のうちがんにかかる可能性は **約2人に1人!**

2.予防について

がんには様々な原因があるが、中には生活習慣が原因のものがあります

つまり、私達にできることは **生活習慣の見直し & 検査を定期的に受けること**

3.患者さんとの寄り添い方

もし家族や身の回りの人ががんにかかったら…

温かい言葉をかけ続け、希望をしっかりと聞きましょう!

様々な人との助け合いが大切です!

9 事後指導

- ・作成したポスターを使って、この学習を通して学んだことや考えたことを家族や他学年(1年生, 3年生)に伝える
- ・ポスターを掲示する(地域内, 市役所等)
- ・アンケートを実施する

がんの予防

あなたはがんという病気について考えたことはありますか? 感染すると恐ろしいイメージがありますが...

実は普段の生活習慣からも予防することができるのです!

※必ずしも生活習慣改善をすればからない訳ではない

今日から始められる予防方法

<p>1.喫煙, 飲酒を避ける</p> <p>喫煙・飲酒はがん発症を多く含むので要注意。また、がんだけでなく他の病気のリスクが上がったり、シワや無毛、皮膚の老化にも繋がってしまいます!</p>	<p>2.食生活の改善</p> <p>栄養バランスの整った食事を心がけましょう。油分・糖分・塩分の取りすぎには注意。野菜や果物を食卓に多く取り入れると良いです。ドレッシングなどの調味料を使いすぎは控えるようにしましょう!</p>
<p>3.適度な運動</p> <p>激しすぎず、太り過ぎに気をつけましょう。骨量不足や免疫力の低下に繋がります。そのためにも、普段から適度な運動を心がけるようにすると良いです。簡単なながら運動なら始めやすい。</p>	<p>4.十分な睡眠</p> <p>免疫機能の回復、免疫力の向上に繋がります。6時間以上の睡眠が理想的。就寝前には起床時のリズムなどは一定であることが重要です。また、寝る前のブルーライトを避けることで眠りやすくなります。</p>

★これらに気をつけて生活することで、がんだけでなく、様々な病気の原因につながるのを、日頃から心がけてみてください。

がん患者の思い

寄り添い方を知ってほしい

患者さんはたくさんの不安・心配があり、治すために命がけの思いをしている。そんな患者さんに私達ができるのは寄り添うことです。

普段通りに接し、何気ない話をする。でも、私達ができることはやるということが大切です。

II 実践のまとめ

【生徒に対する事前・事後アンケート結果について】

質問 1 がんの学習の重要性について	実施前	実施後	増減
がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ（そう思う・どちらかといえばそう思う）	100%	100%	0
がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ（そう思う・どちらかといえばそう思う）	100%	100%	0
質問 2 がんという病気について			
がんは誰もがかかる可能性のある病気である（正しい）	91.7%	95.7%	+4
がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある（正しい）	100%	91.3%	-8.7
がんは日本人の死因の第2位である（誤り）	25.0%	56.5%	+31.5
たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある（正しい）	95.8%	60.9%	-34.9
早期発見すれば、がんは治りやすい（正しい）	87.5%	95.7%	+8.2
体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い（誤り）	95.8%	91.3%	-4.5
がんの治療法には手術治療しかない（誤り）	95.8%	95.7%	-0.1
がんの痛みは我慢するしかない（誤り）	87.5%	100%	+12.5
質問 3 がんへの考えと共生社会について			
自分はがんにならないと思う（そう思わない・どちらかといえばそう思わない）	50.0%	82.6%	+32.6
将来、たばこは吸わないでいようと思う（そう思う・どちらかといえばそう思う）	91.6%	95.7%	+4.1
日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う・どちらかといえばそう思う）	87.5%	95.7%	+8.2
がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（そう思う・どちらかといえばそう思う）	87.5%	95.6%	+8.2
がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである（そう思わない・どちらかといえばそう思わない）	33.4%	69.5%	+36.1
がんになっても生活の質を高めることができる（そう思う・どちらかといえばそう思う）	52.2%	69.6%	+17.4
がん患者を支える仕事に興味がある（そう思う・どちらかといえばそう思う）	83.4%	82.6%	-0.8
がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい（そう思う・どちらかといえばそう思う）	83.4%	82.6%	-0.8
がんと健康について、まずは身近な家族から話ろうと思う（そう思う・どちらかといえばそう思う）	62.5%	78.3%	+15.8
家族や身近な人が健康であってほしいと思う（そう思う・どちらかといえばそう思う）	100%	95.6%	-4.4
長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う・どちらかといえばそう思う）	95.6%	95.7%	+0.1

○アンケート結果の考察

質問2「がんという病気について」では、授業後のアンケート結果は大幅に数値が増加している。これは吉信医師からがんについて詳しく知識を学び、それをもとに清水さんから体験談を聞いたことで、より身近なこととして学習できた成果だと感じる。一方で「たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある（正しい）」という項目が、-34.9%になった。これは講演会の中で聞いた「原因不明でがんになることがある」という話を「予防できるがんもあるけど、原因不明でがんになることもある」と捉えたからだと考えられる。質問3「がんへの考えと共生について」では「がんと健康について、まずは身近な家族から話ろうと思う」が62.5%から78.3%まで数値が上がった。外部講師を招いてがんについての理解を深め発信することで、家族や身近な人に健康であってほしいとの願いを込めた結果だと言える。

【「がん教育推進校講演会」アンケート結果（松里中学校）】

対象者 一般参加者18名 地域関係者5名 本校職員10名

(うちアンケート回答16名)

達成できた← →達成できなかった

	5	4	3	2	1
本日の講演はがんについて正しく理解できる内容だったか	16	0	0	0	0
本日の講演は生徒が主体的に健康と命について考えることができる内容だったか	15	1	0	0	0
本日の講演はご自身の学校で行うがん教育の参考になる内容だったか	15	1	0	0	0

○講演会の感想

- ・医師という専門の立場からわかりやすく説明されていた。中学生からできること、大人になったらして欲しいこと、家族にも伝えて欲しいことなど、生徒たちに投げかけ、伝わったと思う。
- ・地元の医師から話が聞けるといところがとても良かった。がんは一人で戦うものではない、みんなで向き合うもの、マラソンと似ているという話が印象的だった。
- ・がんは誰にとっても身近な病気なので、正しい知識を医師から学ぶという貴重な機会だった。予防法にある生活習慣を整えることは今日から子供が実践できるものなので、より自分ごととして捉えられる内容だなと感じた。保健指導とどう関連させるか難しい単元だが、今日のような切り口で保健指導に活かせれば良いと思う。
- ・吉信先生が、松里小中学校の卒業生であること、県外での勤務を経た松里診療所という地域の医師であり学校医であることはもとより、確かな知識と豊富な経験に基づくわかりやすいお話であったことと先生の語り口が、生徒たちの傾聴や主体的に考える態度につながっており、とても良かった。
生徒の質問、感想発表に臨む姿勢やその内容から、自分自身と大切な人のために、がんについて中学生としてしっかり学ぶことができたと確信できる、とてもわかりやすく今後役立つ講演だった。
- ・教科書や映像では知ることのできない、闘病中の思いや日々の生活の工夫などを直接うかがうことで、がんという病気についてより深く理解することができた。
つい難しくなりがちながんの仕組みなどを、中学生がわかりやすいように話がまとめられていたので、自分自身もがんについての理解が深まった。とても身近な病気ながら、早期発見でかなり克服できるようになっていることは知らなかった。
- ・生徒にとって分かりやすい内容(生徒に身近な情報、要点をおさえたスライド)であり、非常に聞きやすかった。生徒も話をよく聞きながら、メモを取っていて、生徒にとっても、自身にとっても有意義な講演会だった。
- ・教員も生徒もがんについてなんとなく知っているつもりでいたが、原因や症状、向き合い方などに医療関係者とがんサバイバーの方の両方からお話を聞けるととても良い機会だった。がんについて具体的に教えていただき、学びが広がった。
- ・がん教育における知識について、生徒への伝え方のニュアンスを細かい部分まで配慮しながら伝えてくれていることがわかる丁寧で綿密な講演内容だった。

【「がん教育推進校授業公開」アンケート結果（松里中学校）】

対象者 一般参加者15名 推進委員9名 本校職員10名(うちアンケート回答16名)

達成できた← →達成できなかった

	5	4	3	2	1
本時の目標は達成できたか	15	1	0	0	0
外部講師の活用は効果的だったか	16	0	0	0	0
学校におけるがん教育をすすめるうえで、本日の授業はどうだったか	15	1	0	0	0

○本時の目標は達成できたか（理由）

- ・生徒たちが、講師の話の聞いたり資料をみたり様々な学びかたをする中で、自分で考えをまとめることが出来ていた。
- ・外部講師の講話を元に、目標に迫っていた。
- ・講師の話の聞いて、自分にできることやがんへの寄り添い方を考えることができていた。
- ・事前授業や、吉信医師の講演を踏まえての体験者である清水さんのお話、本授業への流れのスムーズさは、生徒さんにとって理解しやすく内容を受け入れやすかった。
- ・今回のがん教育では、外部講師の方のリアルな体験を聞くことで、これまで学んだ知識を自分や家族の生活に活かす方法を考えることができた。本時の目標である「がん患者と共生する方法を見出すこと」も達成できた。
- ・生徒が自分事として真剣に考え、言葉にすることができていた。
- ・生徒たちの考えが授業前と授業後では変容が見られた。しっかりと外部講師の話の聞いたため、漠然とした不安に対する考え方からがん患者の気持ちに寄り添う考え方に変容していた。
- ・家族ががんに罹患したらどうするかを自分事として考えることができた。講演会後の授業だったので病気に対する理解も深まった上で、実際に罹患した方の話を聞くことでより身近な問題として捉えていた。
- ・授業者の先生と生徒のつながり・信頼関係がある中で、良い雰囲気の中で授業が進んでいた。本時のねらいである、がんを身近な問題と捉え、自分の身の周りの人ががんに罹患した場合に適切に対応する力や、罹患者に寄り添うこと、そして自分の命と大切な人の命を大事にすることなどについて、深く考えられるような授業の仕組み・流れがあり、生徒も自分ごととして考えながら主体的に授業に取り組む様子が印象的だった。特別支援学級の生徒も、教員や友人のサポートを受けながら、自分なりの言葉で思いや考えを表現することができ、どの生徒も有意義な時間を過ごすことができていた。また、校内研究とのかかわりの部分で、学び方を自己選択することや、観点を大切にしながらふりかえりを行うなど、他教科・他領域でも活かしていきたい場面がたくさんあり、勉強になった。

○外部講師の活用は効果的だったか（理由）

- ・実際に体験された方の話を聞くことで、講師が生徒たちとの共通点をみつけて伝えていたのが、自分事に落としこめるようになっていた。
- ・目指す目標にあった講話の内容だった。
- ・清水さんの貴重な体験談から学ぶことは大きいと感じた。
- ・清水さん、吉信医師が重ねて訴えられたこと、患者は社会の中で生活しており、いま出来ることを考えて実行していくことが、未来の自分を作るのだということは生徒の中にも残ったと思う。
- ・リアルな体験に基づいた言葉には強い説得力があり、「がん」と聞くと漠然とした不安を抱いていた自分の意識が大きく変わった。
- ・外部講師の話がなければ生徒たちの変容はなかったと思う。
- ・わかりやすい内容であり、多面的な視点での話だった。体験者にしかわからない心情や周囲に対しての思いを率直に話してくださり、本時の目標に迫ることができた。
- ・普段の学校生活では、何事も教科書や映像で学ぶことが多いが、やはり専門家や体験者から生の声を間近で聞けることは、非常に大切なことだと思う。外部講師の活用を行ったことで、生徒の心にずっと残る、印象的な授業になった。今後も、さまざまな場面で外部講師の活用を行い、生徒の学びが広がったり、深まったりするような、リアルな体験を大事にしていきたいと思う。
- ・実際の体験をもとに語ってくださり、生徒の心に響く内容だった。
- ・清水さんが柔らかく、生徒の目線に立ってくれながら、自身の体験談や共生について真剣に話してくれ、がんについて理解が深まると同時に、生徒の心も育つ授業になったと感じる。外部講師の活用はとても効果的だったといえる。

○学校におけるがん教育をすすめるうえで、本日の授業はどうだったか（理由）

- ・外部講師の話や、様々な学び方がとても良いと思った。また、ICT活用が進んでいると感じた。
- ・外部講師の講話を元に、生徒の考えを深めるにはどうすれば良いか、参考になった。
- ・外部講師の活用や、学びを深める場の選択など大変参考になった。
- ・健康について考えがんを予防するために、がん体験者の言葉は、知識としての言葉と違うリアル感を持って受け止められていた。

- ・ 道徳の授業でも生かせると思う。
- ・ 2学年の生徒たちにとって学びになっただけでなく、それを1・3年生にも伝え、家族にも伝えることで本校の学びに広がりが見られる。
- ・ 外部講師の効果的な活用・自分事として捉えさせる工夫があり、非常に参考になった。
- ・ 教員自身も学びが多くあり、非常に参考になった。がんの正しい知識だけでなく、がん経験者や家族の気持ちなど、生命の尊さや共生社会の実現につながる重要なことが、具体的に生徒に伝わる内容になっていると感じた。そして、生徒の真剣な眼差しや、主体的に自分から学ぼうとする姿、がんについて正しく理解し、自分や他者の命を大切にす意識が確かに育まれた時間だったと思う。この授業で得られたことは、今後の本校の教育を構築するための貴重な財産になったと思う。
- ・ がん教育の大切さを感じ、進めていく必要性を感じた。
- ・ 地域の方も参加できる形がよいと思った。

○学校におけるがん教育をすすめるうえでの課題について

- ・ 当事者への配慮
- ・ 外部講師の活用
- ・ 全ての学校において、同じ授業内容、知識習得を求めることは無理だということ。そのうえで、個々の学校においてのがん教育授業の知識を、生徒の学年が上がるにつれて少しずつ消化してもらいたい。

○その他（気づいたこと・感想）

- ・ がん教育のなかに、SOS の出し方教育、人権教育、情報リテラシーなどの要素があり、生徒達の中に何かしら感じたり、残ったものがあるのではないかと感じた。
- ・ 外部講師の方のお話をどう生かすかが大切だと考えさせられた。
- ・ 生徒が清水さんのお話を真剣に聞き、自分事として考えることができていた。
- ・ 指導要領が基本にありながら、個々の学校において授業内容への構成、取り組みには、柔軟性をもって臨まれることは大切な事だと思う。教師、学校側の熱意は生徒に残る時間となる。

【甲州市立松里中学校におけるがん教育について】

○がん教育を通してのまとめ

本授業を行うにあたり外部講師を最大限活用した。まず医療関係者からがんの正しい知識を学ぶ機会を設けた。そして生徒の立場では、がん患者を支える側になるほうがより身近に感じられると考え、がん経験者の方に「支える家族として何ができるか」を考えられるような視点で話をして頂いた。経験談を聴き、がんという病気を自分事として捉えられるように「親からがんになったと打ち明けられたらどうするか」という問いを主発問として考え、発展させていく指導計画を作成した。

吉信医師によるがん講演会のあと、一度生徒に主発問について考えさせたが、生徒は「悲しい気持ちになる」「ショックを受ける」などの回答が多かった。従って清水さんの講話を聴きながら、身近な人ががんになったときに、正しい理解をもとに接することの大切さが実感できるよう、生徒への支援を行った。また、がん患者を支える家族の心情にも目を向け、一人で抱え込まずに相談したり、支援を受けたりすることの重要性を生徒が理解できるように働きかけた。

清水さんの講話後生徒は主発問に対して、「一緒に治していこう、何かできることがあったら言ってねと前向きな声をかける」「どうしてほしいか希望をしっかりと聞く」「不安なことがたくさんあるからこそ、自分が笑顔で過ごす」という前向きな考えに変化した。がんをただ怖いだけの病気と捉えず、家族で患者を支えながら向き合う病気と捉えられるように変化した。

また校内研究でも取り組んでいる「生徒主体の授業づくり」を踏まえて指導計画を作成した。生徒の主体的な学びを引き出すために「学びを深める場」を設け、生徒が自分に合った学び方で考えを深められるような設定にしたことで、教育効果が得られたと考えられる。

○学校教育活動（校内研）の関連付け

本校の研究主題は、「自ら求め、学ぶ生徒の育成～子供主体の授業づくり・自己調整力の育成を目指して～」である。この実現のため、【子供主体の授業づくり】【自己調整力の育成】【ふりかえりシートの効果的な活用】3つの視点を柱とした授業改善を行っている。生徒が興味・関心をもとに主体的に学ぶには、生徒の心理的安全性が確保された


環境づくりや、目的やゴールを明確に提示し、生徒が見通しをもって粘り強く取り組めるよう方向性を示すことが大切である。また、生徒の意見をつなぎ合わせ構造化するなど、教員はファシリテーターとしての役割を果たす必要がある。さらに、「課題設定→情報収集→整理分析→まとめ・表現→ふりかえり」という学びのサイクルで、自分自身の学びを自己調整する力を育成するために、生徒が様々な学び方を試行錯誤し、「自分に合う学び方」を見つけられるようサポートしていく必要もある。同時に、学んだことを確かな学力にしていくために、授業後のふりかえりも大切にしている。「何がわかったか・何ができるようになったか」「次はどうしていききたいか」「学び方はどうだったか」という視点でふりかえることで自分の思考や学習過程を客観的に見つめるメタ認知能力を養う必要もある。

がん教育推進事業に取り組む中で、がんに対する正しい知識とがん罹患者への正しい理解及び命の大切さに対する認識を深めることだけでなく、命の大切さについて学ぶことを通して、自らの命を大切にし、よりよく生きる資質・能力を育成すること等を目的とした実践を、教科・領域横断的に展開した。

道徳や学級活動の授業では、自他の生命を尊重しようとする意欲の育成を図ったり、自身の今後の生き方や在り方について深く考えたりする機会を得た。学園祭に向けては、平和の尊さを題材にした劇や朗読劇に取り組んだ。取り組み期間を通して、命の大切さ、家族や仲間など、周りの命を大切にする姿勢、そして、感謝の心について、多角的に学びを深めた。また、全校を対象とした養護教諭によるいのちの学習では、生命誕生のしくみと命のつながりを理解し、生命の尊さに気づくことができた。


今後も、このがん教育推進事業で得られた成果と知見を全校の授業改善に活かし、本校の研究主題である「自ら求め、学ぶ生徒の育成」を実現するため、引き続き3つの視点を柱とした、研究と実践を教職員一同で取り組んでいきたい。

【松里中学校授業のふりかえりポイント】


授業のふりかえりポイント 

自分なりに学びをふりかえり、考えを更新しながら自己調整していきましょう！

**どうやったか
なぜやったか**




課題解決や目標達成に向けて
何にどう取り組んだのか、
なぜその方法で取り組んだのか
ふりかえろう


授業のふりかえりポイント 

自分なりに学びをふりかえり、考えを更新しながら自己調整していきましょう！

**わかったこと
できたこと**




学習を通して、できたことや
わかったことをふりかえろう
また、できなかったことや
わからなかったことも記そう

授業のふりかえりポイント 

自分なりに学びをふりかえり、考えを更新しながら自己調整していきましょう！

**次にやりたいこと
今後の課題**



学びのふりかえりをもとに
次は「こんなふうに学びたい」
「こんなことを学びたい」と
思ったことを記そう